

2019年5月1日、日本は『平成』から『令和』へと、新しい時代に引き継がれました。テレビの番組の中で、ある方が「今 我々が生きている この時代を 1冊の“本”に例えるなら “西暦”は“ページ”で、“日本の元号“は、”第〇章“というような 区切りと言えますね。」とっていました。なるほど 確かに その通りだと その とらえ方に とても 納得できました。退位・即位にまつわる様々な儀式や慣わしなど、映像を通してでしたが、見る機会を与えられ “元号”の在り方を考えながら、改めて この国の歴史、伝統、文化についても、その歩みを遡り 想いを馳せる時を過すことが出来ました。子ども達の目には どんな風に映っていたでしょうか。

平成は 戦争の無い平和な30年余でしたが、甚大な自然災害が 繰り返され、大きな衝撃を受け続けました。あの日々は 決して忘れることの出来ない 悲しみであり 深い 深い 傷跡です。さらに それらの天災に加え、人間同士による 目を覆い 耳を塞ぎたくなる 痛ましい出来事や 想像を絶するような 残忍な犯罪や事件が 次々と起こりました。まさに 人の心の荒みの罪です。平和を保障され、平和に護られて 生かされてきた私達人間は、心の平和を失ってしまいました。そんな濁った暗い闇を 築いてきてしまった責任が 重く胸にのしかかってくる思いがしました。

けれども10日ぶりに会えた子ども達ひとりひとりの 明るく澄んだ まっすぐなまなざしを 目の当たりにした時、身体中に 新たな力が 漲って来ました。この子ども達が担う未来の世の中に 温かな心の平和を満たしてあげたい、人と人々が 優しく分かち合える社会を造ってあげたいと 心から思いました。幼な子ども達が 自分らしく大らかに自らの命を輝かせ 尊重し合える 安らかな世の中にするため、現在を生きる私達が、大人として保育者として 求められている使命こそ 『心の教育』であることを確信しました。子ども達の心に 神様の愛を注ぎ続けていきたい…と。「わたしの目には あなたは高価で尊い。わたしは あなたを愛している。(イザヤ書 43:4)」 “人の目を恐れることはない、わたしがいる”と 預言者イザヤを通して神様は言われています。子ども達自身が、神様から愛されていること、それぞれが かけがえのない存在であることを 実感しながら 安心して生き合うことができるよう 私達自身、愛されている者として 人として どんな時も 真剣に ぶつかり合い、ひとりひとりの心に 寄り添っていきたくないと願っています。

イエス・キリストは、十字架に掛けられる前夜、愛する弟子たちの前にひざまずき、彼らの汚れた足を ひとりずつ ていねいに洗った後、優しく皆を見つめながら 静かに言われました。「わたしが あなたがたを 愛したように、そのように、あなたがたも 互いに 愛し合いなさい。」(ヨハネの福音書 13:34) “あなたがた人間達が、いつも 互いに 優しく在ること、互いに 信じ合うこと、赦し合うこと、何よりも 互いに 愛し合うことを 神様は願っておられますよ”と イエス・キリストは 弟子達へ切なる祈りを込め、人として生きられた生涯の “最後の言葉”を 遺されました。「互いに愛し合う」生き方は 私達にとって本当に難しいことだと思わされます。だからこそ 人が人に引き継いでいかななくてはならない “永遠の課題”であり “使命”であると 教育(保育)の現場に於いて 目指すべき光を見失ってはならないと心を新たにさせられました。

皆の笑顔が溢れ、明るい希望の光に包まれて迎えられた この“令和”という時代の始まりに、目の前の 愛する子ども達や、そして これから生まれてくる たくさんの新たな命たちにとって 人々の心が穏やかな平安に満ち 輝く未来を築ける歩みとなりますよう 神様の祝福を祈ります。「いつまでも残るものは、信仰と 希望と 愛です。

その中で一番すぐれているのは愛です。(I コリント人への手紙 13:13)」(石田 記)